

卑弥呼と鏡

日本の神社には多く鏡が飾られています。魏志倭人伝には卑弥呼が魏から銅鏡百枚をもらったと記されています。

鏡は中国から伝わりました。鏡は化粧道具として使われます。陽燧（凹面鏡）は顔を大きく映せますが、太陽から火をとることができます。鏡の丸い形は太陽の形を模しています。鏡の背面の模様は太陽の光芒をあらわし、連弧や連珠文や乳は太陽が10あるという十日神話を反映しているようにみえます。沈んだ太陽は再び昇ります。これは復活再生の思想をあらわしています。

鏡にうつるのは逆さまの世界です。鏡にうつるのは左前（死者の服装）の姿です。鏡には悪霊の正体が映し出されます。そのため魔除けにも使われました。副葬品として墓に入れるのは、被葬者のあの世での復活再生を願い、かつまた遺体に入り込もうとする悪霊を追い払う意味もあるのでしょうか。

卑弥呼の鏡は、どのようなもので、どのように使われたのでしょうか。

面文帯同向式神獸鏡 3世紀 径19.1cm
奈良県立橿原考古学研究所所蔵

平成28年 **7/5 (火) 18:30-20:30** (18:00-受付)

定員 40名 (先着順。定員になり次第×切。)

参加費 無料

持ち物 「卑弥呼」「鏡」というテーマに沿った本。

※本を用いた自己紹介の時間があります。また、皆様がお持ちくださった本を集めてライブラリーの一角に「卑弥呼と鏡」コーナーを作りますが、寄贈が難しい場合は遠慮なく当日お伝えください。

開催場所 大阪府立大学 I-site なんば 3階 まちライブラリー@大阪府立大学
大阪府大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号 南海なんば第1ビル

申込方法 Email ; acafe24@ao.osakafu-u.ac.jp (半角英数・第24回申込専用アドレス) にて受付
<件名>第24回 卑弥呼と鏡 <本文>①氏名 (ふりがな) ②携帯番号 を明記してください

主催・問合せ 大阪府立大学 地域連携研究機構 地域連携室 まちライブラリー係
opu-lib@ao.osakafu-u.ac.jp (申込先アドレスとは異なりますのでご注意ください)

カタリスト



大形 徹

大阪府立大学
人間社会システム科学研究科 教授
研究分野：中国哲学
研究テーマ：書道篆刻関係
神仙思想の構造の解明
靈魂觀念関係